

「子育て支援ネットワークづくりに関する研究」 － 行政，市民，大学との三者協働（２）－

短期大学保育科 瀧口 優

はじめに

2009年度より「小平地域における子育てネットワークに関する研究」として、センターの助成を受けて研究を重ね、2011年度から学術振興資金の助成を受けて、上記「子育て支援ネットワークづくりに関する研究－行政，市民，大学との三者協働」をスタートした。2012年度は5つのプロジェクトで研究を進め、その結果を年報18号に報告させていただいた。

2013年度は5つのプロジェクトがそれぞれまとめをはかりながら、全体として行政，市民，大学が協働する子育て支援ネットワークづくりをめざすということになっていた。以下今年度のまとめであるが、学術振興資金の最終年でもあるので、3年間のまとめをかねて報告する。

経過と課題

2011年度採択にあたって5つのプロジェクトを立ち上げた。

- ①行政・大学・市民の三者協働による東村山市の「ころころの森」の過去3年間の総括
(代表：山路)
- ②多摩地域におけるファミリー・サポート・センター事業の実際と課題について(代表：佐々)
- ③小平地域における地域ネットワークづくりへの取り組みと実践的な課題を明らかにする
(代表：草野)
- ④子育て支援事業（短期利用事業）による地域の子育て支援について（代表：中山）
- ⑤地域ネットワークに関する比較研究－日野市の場合（代表：金子）

2012年度はそれぞれのプロジェクトがテーマに沿って研究を進め、その成果が2013年3月の教育・福祉研究センター主催のオープン研究会において発表された。その中で「地域ネットワークが、個々の努力にもかかわらずますます弱くなっている」と「とりわけ都市部では行政などの様々な取り組みがあるにもかかわらず、自治会（町内会）の組織の弱体化をはじめとして改善されない状況が続いている」ことが指摘された。

以上の課題を踏まえてこの1年間取り組み、本年3月には公開研究会「子育て支援ネットワークづくりに関する研究－行政，市民，大学との三者協働」を白梅学園大学・短期大学子育てネットワークに関する研究報告として実施した。個々のプロジェクトの報告は省略させていただくが、報告と議論の中で課題となったことを紹介したい。

これからのネットワークづくりに向けて

東村山の「ころころの森」にしても、あるいは「小平市西地区地域ネットワーク」にしても、地域の子どもや高齢者を視野に入れた世代間交流と子育て支援が位置づいてきた。しかし「顔の見えるネットワークづくり」という点から考えると行政全体は広すぎて、様々な行事に取り組んでも、それが「顔の見える」ネットワークづくりに結び付かない。日野市の比較研究や子育て支援事業（短期利用事業）の研究、ファミリー・サポート・センターの調査では、子育ての課題について具体的な支援が見えるものの、地域としてどのような関係を築いていくのかは別の課題として考えなければならない。

3年間の研究を通して見えてきたことは、確か

に「顔が見えるネットワークづくり」には地域を限定したネットワークが基本であるが、やや地域は広がったとしても「子育て」「防災」「介護」「教育」「まちづくり」「多文化共生」等の課題別のネットワークづくりも必要であること、それらを縦と横に組み合わせることで「顔が見える」関係が豊かになることである。近所づきあいは大切であるが、それだけでは息が詰まることもあり、趣味なども含めた人間関係も並行して作っていくことが必要なのではないか。

これからのテーマとしてはどうやってこの縦と横の組み合わせを地域に築いていくのか、大学がどのように関わっていくのか、白梅に関しては学園として関わっていくことも視野に入れ、乳幼児から高齢者までを視野に入れた「子育て支援ネットワークづくり」が今後の課題として引き継がれることになる。

<研究メンバー>

金子 尚弘 (子ども学科)
 草野 篤子 (家族・地域支援学科)
 小林美由紀 (家族・地域支援学科)
 佐々加代子 (子ども学科)
 関谷 栄子 (家族・地域支援学科)
 瀧口 優 (保育科)
 多喜乃亮介 (発達臨床学科)
 中山 正雄 (保育科)
 成田 弘子 (子ども学科)
 長谷川俊雄 (子ども学科)
 福丸由佳子 (発達臨床学科)
 山路 憲夫 (家族・地域支援学科)
 佐久間路子 (発達臨床学科)
 杉本 豊和 (家族・地域支援学科)
 土川 洋子 (家族・地域支援学科)
 西方 規恵 (家族・地域支援学科)
 牧野 晶哲 (家族・地域支援学科)
 森山千賀子 (家族・地域支援学科)
 井上 恵子 (嘱託研究員)
 瀧口 真央 (嘱託研究員)

中野 圭子 (嘱託研究員)
 奈良 勝行 (嘱託研究員)
 吉村 季織 (嘱託研究員)